

学生による図書えらび

経済学部准教授 山田和代

学生がえらぶ本にふれてみよう。滋賀大学図書館（本館）には35万冊以上の図書が所蔵されているが、その一部は、学生による蔵書企画と選定によるものであるとご存知だろうか。

「彦根地区図書選定学生委員会」が毎年設けられ、昨年の場合、学内公募8名と図書委員推薦7名（計15名）が6月に募集された。計3回の会議を通じて、学生の図書購入リストを作成する。この委員会の楽しい点は、あるいは参加学生にとってメリットとなる点は、選定基準（「大学図書館に相応しい」）の枠があるものの、いち参加学生に対して3万5000円の図書購入を行うことができる点にある。

昨今、「本を買うお金もない」と耳にするなかで、自分の関心に基づいて、自分が読みたい、図書館に所蔵したい本が、1冊2000円程度のものであれば20

冊近くそろえられる。本棚にすれば、一段におよぶ。そうして選考された図書が、毎年、本館図書館に登場しているのである。

さらにこの選定作業で楽しいのは、「学生推薦図書コメント集」を作成している点である。手にとって見たことがあるだろうか。その2010年度版をみると、84冊の本が紹介されており、それらの分野は小説から語学、啓蒙、就活、人生指南などとなんと幅広いことか。加えて、各推薦図書には関連文献まで紹介されている。

滋賀大学経済学部在籍した学生が、あるいは友達が先輩が、どんなことに興味があり、その興味を1冊の図書として図書館におさめていって欲している。ぜひ、そんな大切な一冊を手にとって見てはいかがであらうか。

